

出土遺物

谷の中の土からは、生活に使っていた土器や石器のほか、玉や磨製石器を作る道具などが見つかりました。

日常生活の道具類

弥生土器

普段の生活の煮炊きや貯蔵などに使っていました。

石のやじり（石鏃）

狩りに使い、矢の先に着けます。サヌカイトという石で出来ています。

削器

切ったり削ったりするための石の道具です。

石の鎌（石包丁）

稲穂を摘み取るのに使う道具です。

磨いて作った石斧（磨製石斧）

木を切り倒すための道具です。

磨いて作った小形の石斧（扁平片刃石斧）

木を削るための道具です。

砥石

すり減った刃物などを砥ぐための道具です。

石剣

鉄や銅の剣を真似て作った石の剣です。お祭りで使ったという説や、武器だったという説があります。

—日常生活の道具類—



1 弥生土器 2 石のやじり（石鏃） 3 磨いて作った小型の石斧（扁平片刃石斧） 4 石の鎌（石包丁） 5 磨いて作った石斧（磨製石斧） 6 砥石 7 削器 8 石剣

—玉作りなどの道具類—



9 玉作りの素材 10 石鏃 11 はずみ車 12 土製円盤 13 玉を砥いだ砥石（玉砥石）

—縄文時代の遺物—



石鏃

矢柄研磨器

その他の時代の遺物

縄文時代の石鏃・矢柄研磨器（矢の柄を真っ直ぐに削る道具）が見つっています。これらは約10,000年前以上にまで遡る時期のものである可能性があります。

まとめ

堤ヶ谷遺跡の本格的な発掘調査は始まったばかりですが、出土遺物の様子から、この丘陵地には約2,000年前には玉作りや磨製石器を作る人たちが暮らしていたことが明らかとなりました。これからも続く調査により、いろいろなことが明らかになっていくでしょう。

堤ヶ谷遺跡発掘調査現地説明会資料

平成25年（2013）2月24日（日） / 公益財団法人滋賀県文化財保護協会

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。

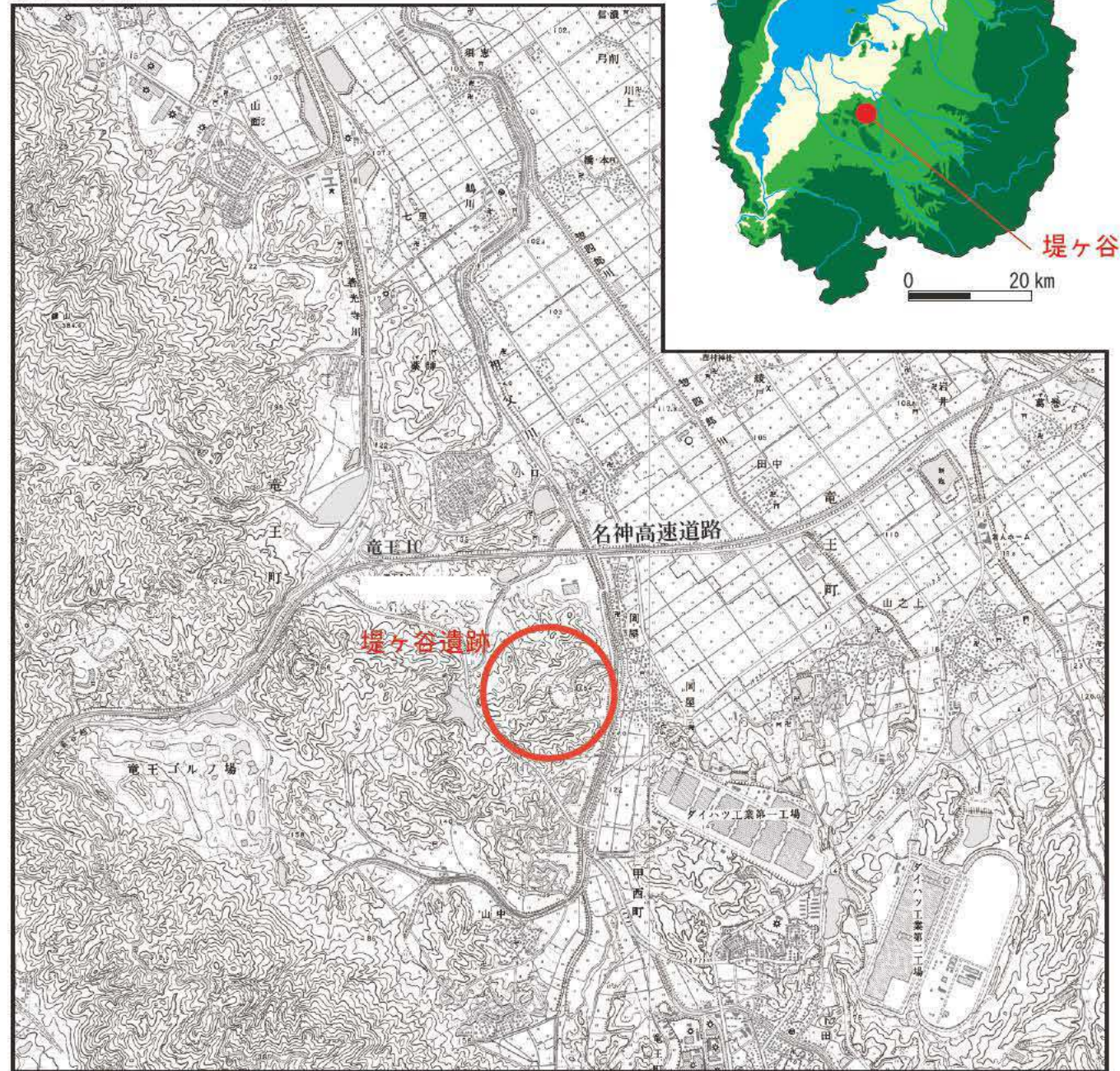


公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

はじめに

■堤ヶ谷遺跡は、滋賀県蒲生郡竜王町岡屋にあり、弥生時代中期・中世頃の複合遺跡として知られていました。

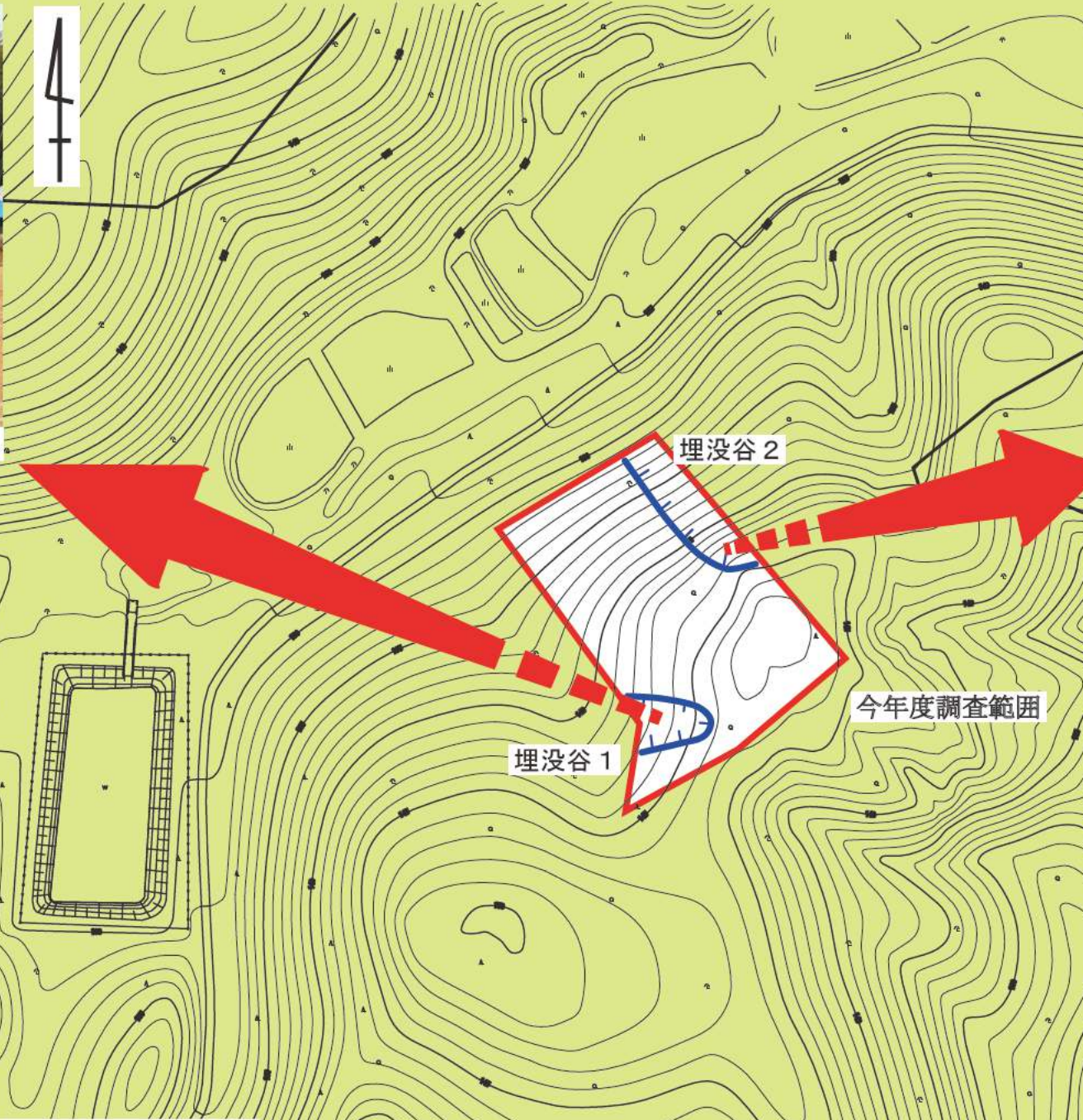
■丘陵一帯の造成工事計画にともない、滋賀県教育委員会が調査主体、公益財団法人滋賀県文化財保護協会が調査機関となって、平成20年度に遺跡の確認調査を、平成22年度に試掘調査を実施しました。その結果をうけまして、平成23年度から本格的な発掘調査を実施しています。



堤ヶ谷遺跡の位置



埋没谷1 (山頂から見たところ)



埋没谷2 (山頂から見たところ)



埋没谷1の竪穴住居跡



埋没谷2の段状遺構



堤ヶ谷遺跡の想像復元図

今年度の調査では、古くに埋まった谷が見つかりました。谷を埋めていた土の中には、弥生時代中期(約2,000年前)頃の土器や石器が沢山含まれていました。石器には玉(今のアクセサリー)を作るための道具などもありました。

埋没谷1の斜面では、竪穴住居跡が見つかり、多くの土器や石器が見つかりました。埋没谷2の斜面では、段状遺構という半円形に地面を削って平らにしたところが見つかりました。段状遺構の性格は分かりませんが、埋没谷1のように、住居跡などがあったのかもしれません。



発掘調査の様子

